



残暑お見舞い申し上げます。会員の皆様お変わりございませんでしょうか。
今夏も、見事な蓮花が咲いたことでしょう。今年最後の例会を、左記のとおり開催します。都合のつかれます方は是非ご出席ください。

例会のお知らせ

日時 10月24日(土) 17時30分～20時30分
議題 夏の蓮の花の情報交換会

秋の夕暮れ、蓮の自慢話を大いに楽しくお聞かせ下さい。

場所 豊島区立勤労福祉会館 第2会議室
豊島区西池袋2-27-4

電話 03-3980-3131

問合せ 事務局まで 03-3951-5630

『蓮文化だより13号』の原稿締切りせまる

『蓮文化だより』13号を明年一月、発行の予定です。原稿締切りは九月末日厳守です。締切りに遅れた場合は、掲載出来ないことがありますのでご注意ください。紙面書式は縦書きです。随筆、創作、観蓮記、研究など蓮に関することなら内容は問いませんが、独創的なものを歓迎します。

一人一ページを原則とし、文字数は二千字から二千五百字です。二ページになる方は、五千字を限度といたします。写真、図版をなるべく多く添えて戴き、写真の選択は編集部に一任下さい。

原稿をFD、MO、CD、USBメモリー等に収め提出される方は、文章上の設定、編集をせず、TXTファイルにして下さい。画像解像度は300DPI以上、PC加工をせず、DATAはウィンドウズOSで、読み込み可能なフォーマット形式にてお願い致します。

『蓮文化だより』表紙写真を募集します

今年も『蓮文化だより』の表紙写真を会員から左記の要領で募集します。撮影画像は、開花2日目の、花托も鮮明に写る花姿に限定です。バックのボケは構いませんが、花全体(花托

花弁の条線等)にピントを合わせて撮影下さい。

A4サイズで印刷する画素数を確保するため、ボジ、ネガフィルムは、6×6、6×9等、プリント画は、キャビネ版以上のものを提供下さい。デジタル画像DATAの場合には、500DPI以上のRAW、TEF、BMP、JPG(低圧縮)のフォーマットのものをご用意下さい。

左の構図比率(天、花、地、同高)で、トリミング可能に、撮影下さるようお願い致します。



画像には、DATA加工を一切加えないで下さい。加工処理で、印刷精度を落とすノイズが発生し、補正が不可能であれば、採用できませんのでご注意ください。

応募戴いた作品が全て規格に合わなければ、他からの写真を選択する場合があります。

会員紹介(7月&8月に入会された方)

恵澤澤二 〒二七一・〇〇六四

千葉泉松戸市上本郷***

電話 047-366-***

神鳥信也 〒二六二・〇〇一二

千葉泉千葉市花見川区千種町***

電話 043-259-***

畑 雅 〒二四八・〇〇一七

鎌倉市佐助***

電話 0467-23-***

藤井万千恵 〒一四二・〇〇九三

品川区荏原***

電話 03-3781-***

大石浩準(寺院住職) 〒二五〇・〇〇〇三

神奈川県小田原市東町***

電話 0465-34-***

双頭蓮と双頭葉が同時に開く



ネットの蓮談義で紹介されましたが、静岡県在住の関根美千子会員が育てた一鉢から、同時に双頭蓮と双頭葉が開きました。別々に開いた記録はありますが、双頭蓮だけでも珍しいのに双頭葉も同時に開いたのは、初めての事と思われまます。天文学的確率、奇跡中の奇跡になるのではないのでしょうか。

中国・ロシアの「北限の蓮」調査の旅

8月3日より11日まで、中国の荷花展以来親交のある、中国科学院植物研究所の薛教授とロシアのタマーラ教授の案内で、中国とシベリア東南の野生蓮調査に会員ら10名で訪れました。黒龍江省ハルビン市と虎林市、ハバロフスクの西南西、約300キロ先にある、ユダヤ自治州ビロビジャン、アムール川付近北緯47度47分20秒、東経131度20分2秒の各地点に野生蓮生息を確認。虎林市の見渡す限り蓮の広がる月牙湖(写真)、ハルビン市の東165キロの蓮花村では、第14回の蓮祭りが行われていました。ここでの蓮をあしらす料理はとても珍しいものでした。いずれ報告する予定です。



金沢市・持明院の「妙蓮」危機乗り越え開花

蓮通信41号で藤村進会員から、金沢市の天然記念物である持明院の妙蓮が、環境悪化のため絶滅の危機と報告され心配でした。しかし地元農家の手によって、昨年からの妙蓮池修復工事が行われ、妙蓮を他に移し池の土が入り替えられました。5月7日には整備された妙蓮池に、妙蓮が植え戻されました。以後順調に育ち、7月21日に第一花が咲き、その後も次々と花が咲いているとのこと。

『蓮100の不思議』 出帆新社刊

当会はこれまで『蓮通信』、サイトへ「蓮のQ&A」を順次100項目掲載してきました。これに注目した



定価 ¥2,700 円+税
注文・問合せは **出帆新社**へ
電話 **03 - 3439 - 0705**
FAX 03 - 3426 - 7474

出帆新社から、装い新たに『蓮100の不思議』（版形B6 214頁オールカラー）と題した書籍にし出版されました。すでにご注文の方々は発送済みで、好評を得ています。まだご覧いただいていない方は、是非書店で手にとって見て下さい。なお、本書は事務局では取り扱っていませんので書店で買い求め下さい。

行田蓮 アトリエ・ミウラ刊



定価 ¥1,800 円+税
注文・問合せは **アトリエ・ミウラ**へ
電話・FAX 03-3951-5630

これまで、行田市の天然記念物「行田蓮」について書かれた書籍は皆無です。今回、古代蓮の里の建設以来長年にわたり行田蓮に携わってきた、田島真一会員（行田市）らによって行田蓮史が纏められました。後半は蓮の花の豆知識で図版多数掲載。『行田蓮』（A4変形40頁オールカラー）。

木暮照子作品集「蓮花物語」 悠久の時を巡る



定価 ¥1,800 円+税
注文・問合せは **木暮照子**へ
電話 048 - 556 -

当会理事で人形作家である、木暮照子積年の作品集（A4版 64頁オールカラーマリア書房刊）が上梓されました。この作品集は蓮に感じた神秘の蓮宇宙を、蓮の景色・蓮の時・蓮の音・蓮の自覚め・魅惑の花蓮・天に舞う・時を超えて、の七つのテーマを人のかたちで表現しています。約70点の作品が紹介されています。

熏風集

2007〜2009 荷花科技・文化・産業文集
王其超・張素梅主編 中国林業出版社



ご希望があれば、取寄せ致します。頒価は6〜7,000円位の予測です。
注文・問合せは**事務局**へ
電話・FAX 03-3951-5630

毎年中国で開催されている、中国花卉協会・荷花分会の荷花展の国際シンポでは、蓮に関するあらゆるジャンルの学術発表がなされています。今回の『熏風集』（391頁）は、2007年から2009年までの大会で発表された、

105編の論文が掲載されています。本書は『燦爛的荷花文化（2001年）』『蓮之韵（2003年）』『舒紅集（2006年）』に続く4冊目です。本書には高橋祥雲、池上正治、山本和喜、三浦功大の発表が掲載されています。
夏の国立博物館には沢山の蓮文様がありました
特別展「染付」藍が彩るアジアの器が展示

平常展

大日如来座像の体内に「蓮の花が」。栃木県足利市の光得寺に伝わる大日如来像は、鎌倉時代初期の運慶の作とされています。X線断層撮影で像内には銅製の蓮の花が二花入っているのが確認されました（写真左上）。10月12日まで展示。
蓮詩絵箱（鎌倉時代） 以下9月6日まで
蓮池詩絵経箱（江戸時代） 大阪・金銅寺
蓮弁散絵鉦架（平安時代）

工芸

色絵金彩花鳥文龍耳瓶 清水清閑 明治10年
花卉木画額 西村壮一郎 明治14年
蓮に鷺図花瓶 孝一作 明治10年



絵画

四季花鳥図屏風双幅 伝雪舟等場 室町時代
花鳥図 清原雪信（生没年不詳） 江戸時代
久能寺経（装飾経）12世紀（写真右下）
平家納経とならぶ装飾経で、鉄舟寺ほかに27巻現存する。永治2年（一一四二）に鳥羽法皇の中宮・待賢門院の出家に際して生前に死後の冥福を祈って仏事する逆修供養のために作られたもの。同経の見返しには、蓮図が多く描かれている。